令和５年度　幼児教育研修（年齢別担任研修５歳児・第２回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和５年７月４日（火）１５：００～１７：００
会場：足立区生涯学習センター
講師：和泉短期大学　　教授　松山　洋平　氏

子どもの「今」を受け止め応じる保育

子どもが**今**、何をしようとしているのか、その子のしていることの**「意味」**を**横並びのまなざし**で共感的に探りながら、**温かく・応答的・受容的に関わりあうこと**が「発達に応じる」ということ

にもかかわらず…「今はこうするべき」と【べき論】になりがち

「できる・できない」で発達を見ようとせず、
発達過程の中で今の姿を受け止めることが大切

NG
「5歳だから」
「例年そうしているから」
「もうすぐ1年生だから」

子どもは周囲の環境に“自分なりの関わり方”で「対話」する

ポイント
保育者は、今を一生懸命に生きる子どもの
◆「自分で・自分が・自分から」を尊重する
◆興味や関心をもったことに没頭できる時間・空間を保障する
➡多様なヒト・モノ・出来事との出会いから「対話」が生まれ、「主体的・対話的で深い学び」へとつながる

子どもが自分のペースで過ごす時間軸の「余白」が大切
楽しかったな～、次はこうしたいな～、活動や遊びを味わう、振り返る…など
自分に向き合う時間

保育の「見える化」で「対話」を促す ～フォトカンファレンス～

写真は一目瞭然

保育の質を高めるためには
心を開いた語り合いが必要

でも…
流れていく保育を語り合うには
どうしたらいいのだろう？

「見える化」に写真を活用すると…

〇保育の経験の差に関わらず、誰もが参加しやすい
〇語り合いの視点を焦点化しやすい
〇作成のプロセスにも学びがたくさんある

写真を撮る・選ぶ、提示の仕方や話し方を考える
||
着眼点をもって保育を見る

語り合いの視点で大切にしたいことは…

「ない」からではなく
「ある」から出発する子ども理解

〇今ある姿を大切にする
〇その子が見ている世界を共に見る
〇子どもの未知性を尊重する

保育は流れていってしまうので、何かに追われて終わってしまわないように…
「今、これを見ていこう」
「これに向き合いたい」
と自分の中で宣言することが大切です。

その子が**「今」**チャレンジしようとしていること、おもしろがっていること、味わっていること、発見していること、困っていること等をその子の側から探っていきましょう。

着目するのは「心が動かされる＆想定外の出来事」～ビデオカンファレンスより～

事例① 宝さがしをしよう♪

宝の地図を描いて
広場へ出発!!

↓

広場に到着!!
地図に×印をつけ
「ここに宝がある!」

みんなで探すと…
三角の石を発見!!
「マリオのきのこだ～」

次の×印を目指すと…
少し大きい石を見つけ
「クッパの骨!」

ファンタジーの世界と現実世界を行ったり来たりしながら、本物らしくやりとりを楽しむ

事例② おいしそう!!

広場で石や葉を発見!!
「ピザ食べよう♪」

想定外の落とし物を拾いごっこ遊びが始まる

自然物にはわくわくがいっぱい!!
偶然の出会いに心が動かされる

想定外の出来事

↓ **対話** ↑

おや?
ひらめき
どうして?

驚き
なぜ?
戸惑い

ヒト・モノ・出来事との**対話**を通して
生まれる**発見・試行錯誤・探求**など

‖

主体的・対話的で深い学び

事例③ だんごむしウジャウジャ

「生き物コーナー」はあるけれど…

保育室のテーブルの上に
たくさんのだんごむしを

放つ!!

だんごむしが保育室を
旅する事態に!!

生き物は、応答性があるからおもしろい!!
生き物との出会いは、いつも心が揺さぶられる

飼育ケースが並ぶ「生き物コーナー」が
あるのに、どうして別のところで遊ぶの?

『相(そう)』の移ろい　牛山栄世

①ヤドカリ**で遊ぶ**
②ヤドカリ**と遊ぶ**
③ヤドカリ**の気持ちになる**

自分本位
↓
相手本位

相手の本当の思いを汲み取ることで、
生き物との接し方も変化します

↓

体験から得た生き物との関係が、③の相になっていると、生き物コーナーが機能する

研修生の報告書より

子どもが何に注目し、面白がりチャレンジしているのか、今ある姿から着目することが大切だと感じた。

「5歳児だから〇〇でなければならないと思っていないか」という講師の問いに、自分の中にもそのような価値観があったかもしれないと気づかされた。子どもの姿から保育を生み出していきたい。

相の移ろいを学び、虫と遊ぶことにも段階があることに気づかされた。“どうしてそうするのか?”一人一人の発達の過程も踏まえてアプローチしていきたい。